

ACP
3回目

R4. 3 緩やかに身体機能が低下してきたKさんに次の質問をしました。

職員：希望する終末期の医療はありますか。

ご本人：初回と変わらず延命は望みません。

職員：希望する最期の場所はありますか。

ご本人：『よければこのままこちらで・・・。』

職員：何かしておきたいことはありませんか。

ご本人：『したいことはないです、早くお迎えが来るように願っていますが、**私が生きて
いると、子供や孫が喜んでくれる**のでそのために生きているようなものです。』



ACP 3回目にして**お気持ちが変わってきました。**

このようにACPは終末期の医療や過ごし方を繰り返し話し合ったり、お聴きすることで、誰にでも訪れる「死」と向き合い、本心を明らかにし、ご家族には悔いのないよう心の準備

病状説明

その後 Kさんは眠っている時間が増え、お話できる時間も少なくなりました。施設長よりご家族に、残りの時間が短くなってきていると説明すると、ご家族から「**家族みんなで過ごしたい**」とのご意向がありました。ご家族が目標とされていた「**初孫とひ孫に会わせたい**」という想いを実現するため、県外や外国在住の家族でも

娘宅退所

《退所後の松山の長女様宅でのご様子です》



ご家族皆様のこの素敵な笑顔は、ご本人様からの贈り物だったんですね。



R5. 1月
新年を迎え、長女さんから写真付きのメールが届きました。

明けましておめでとうございます。母ですが、1月4日に息を引き取りました。オーストラリアのひ孫に会い、全員の子供、孫に会えて、お正月も過ぎて、これ以上望むことはないだろうって感じで旅立ちました。最期の看取りを後押ししていただき本当に感謝しています。ありがとうございます。写真は亡



職員も様々な経験をさせていただきました。学んだことは今後のケアに繋げていきます。ありがとうございました。



なんぐん館ご利用者様へ

『ACP（アドバンス・ケア・プランニング）／別名：人生会議』
をご存じですか

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり望みを人に伝えたりすることが、できなくなると言われています。

そこで、もしもの時のためにあらかじめ希望する医療やケアについて考えたり、信頼している人たちと話し合い共有しておいたりすることを「ACP（アドバンス・ケア・プランニング／別名：人生会議）」と言い、厚生労働省が推奨しています。

R3.7からなんぐん館でも厚生労働省が推奨している「ACP（人生会議）」の考え方をもとにご本人、ご家族に下記の**3つの質問**をしております。

- ① 希望する終末期の医療 ② 希望する最期の場所 ③ 今後しておきたいこと

今回の『ACP新聞N02』は、ご本人やご家族に上記の**3つの質問**や**今後の過ごし方**について繰り返しお聴きし、皆様が納得のいく終末期を過ごされた方をご紹介します。

※アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは
自分がどのような医療を受けたいか、あるいは受けたくないのか、また、どこで人生の最期を過ごしたいかなど、医師やケアマネジャーなど医療や介護の専門家から必要なサポートを受けながら、家族等も交えて、希望や考えを明らかにしていくための話し合いを「ACP（人生会議）」と言います。

